

いえ べん 家で勉強する!

平成24年度
家勉充実プロジェクトの成果と
平成25年度の取組に向けて

主体的な学びをしまねに

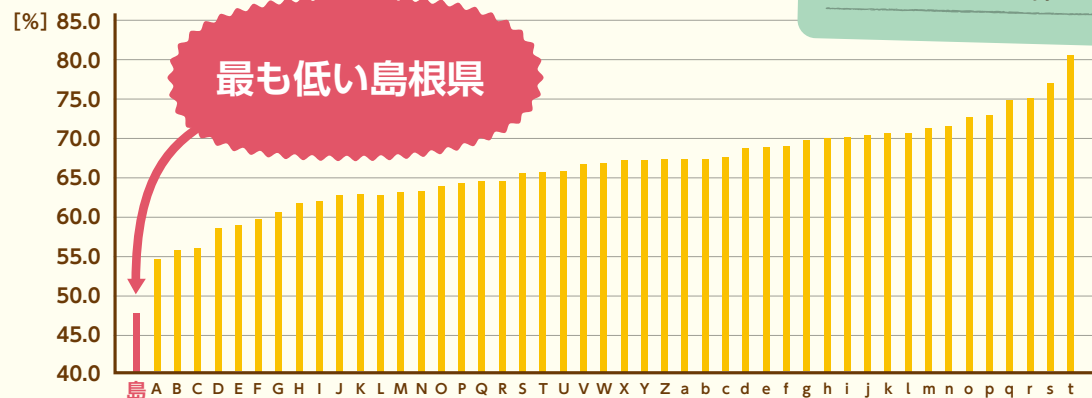
SHIMANE Board of Education IE BEN PROJECT



イエベン先生

保護者から「中学校に入って、家で勉強しなくなった。」という声を聞いたり、職員室で「生徒の家庭学習の習慣が…」「生徒のやる気が…」という会話が交わされたりすることはありませんか？島根県の子どもたちは「主体的に学習に取り組む態度」を身に付けているのでしょうか？

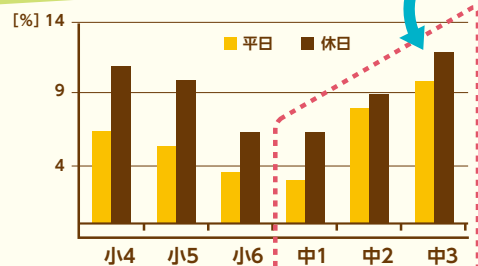
1 平日学校以外で
1時間以上の勉強をする
生徒の割合（都道府県別）



最も低い島根県

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）」に、「1時間以上」を回答した割合（平成24年度全国学力・学習状況調査 中3（公立）の質問紙より）

2 家庭での学習を
ほとんどしない
島根県の児童生徒の割合



（平成24年度島根県学力調査より）

中学生になると
「家庭でほとんど勉強しない」
生徒の割合が増加

島根県の小中学生の
学力に関する課題のひとつは
家庭での学習時間が
十分でないこと。



しまねの子どもたちは
家庭での学習習慣が
付いていないのが
やっかい

2つの中学校が、家庭学習を
充実させる実践研究に取り
組みました。

平成25年3月
島根県教育委員会

IE BEN POINT

実践校の取組等から見えてきた 「家勉充実」のポイント

実践校の取組等から見えてきた「家勉充実」のポイント



1 教科間の 連携の推進

■各教科の宿題について、教科担当者間で情報交換していますか？

2 宿題の 質の見直し

■授業と家庭学習をつなぐ*意識で宿題を出していますか？
■出した宿題をきちんと評価し活用していますか？

*「宿題をしてきたら授業がよく分かった」「宿題をすることで学んだことがより理解できた」と生徒が実感できるようにすることが大切。（見直しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視）

3 学習意欲の 向上につながる 授業改善の推進

■教師が授業力向上を意識していますか？
■生徒に自分の将来や実社会とのつながりを意識させる授業を行っていますか？
（キャリア教育の視点をもった取組の充実）

4 小中連携の推進

■小学校と中学校が目指す子どもの姿を共有して「家勉」指導をしていますか？
■発達の段階に応じて、家庭学習を自主的・計画的に進めることの大切さを指導していますか？

平成25年度は10市町村で「家勉充実プロジェクト」に取り組んでいただきます。各学校においても、この5つのポイントを参考に家庭学習の充実を図り、しまねの子どもたちの「主体的に学習に取り組む態度」を育成しましょう。

5 家庭との 連携の推進

■保護者に家庭学習の習慣付けのための協力を働きかけていますか？
■子どもが生活のリズムの中に勉強を組み込めるよう指導をしていますか？

発行：島根県教育委員会

島根県教育庁義務教育課学力向上推進グループ TEL 0852-22-5576

ホームページ <http://www.pref.shimane.lg.jp/kyoikuiinkai/>

☑ 安来市立第一中学校

研究主題

自ら学び、自ら考え、互いに高め合おうとする生徒の育成 ～基礎学力の向上と、互いのかかわりを大切にした学習指導の工夫～

研究の概要

1 校内体制作りと小学校との連携

- 主幹教諭が研究の中心となり、研究部内の役割を明確化。
- 小学校との協働による「学習の手引き」の作成・活用。
- 小・中が時期を合わせて「生活チャレンジ週間」を実施。

2 家庭学習の充実につながる指導の工夫

- 終礼時の5分間学習を活用した家庭学習への接続。
- 学年の実態に応じた宿題の設定と個別の支援。

3 授業の改善

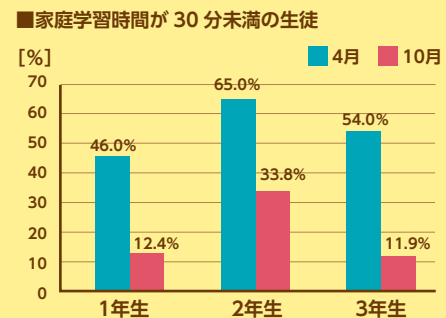
- 「言語コミュニケーションによる学び合い*」を取り入れた授業の推進。
- グループ学習やペア学習の有効な活用。
- ホワイトボードを活用した話し合いの活性化。
- すべての教科で共通して取り組む授業規律の確立。



グループによる話し合いの様子
男女混合4人グループ。並び方を工夫し、話し合いを活性化。

研究の成果

- 「家庭学習の時間が30分未満の生徒」が大幅に減少した。
- 家庭学習への意欲の高まりが見られた。
- 主体的な授業参加や話し合いの深まりが見られた。
- 安来市教育研究大会での発表や安来市学力向上担当者研修会を通して研究成果を市内に普及できた。



今後の課題

- 生徒の学習習慣や意欲の課題に対して、その背景を踏まえた個別の支援を充実していくこと。
- 生徒の学習意欲を高めるために、教師の授業力を更に向上させること。

※言葉によるコミュニケーションを核とした、生徒同士のかかわりを大切にしたい学習形態のこと

☑ 浜田市立第二中学校

研究主題

自分から進んで家庭学習に取り組む生徒の育成

研究の概要

1 キャリア教育の視点で迫る学習意欲向上のための取組

- 佐々木 宏 氏*による、家勉講演会の開催。
- 職業に関するDVDを活用した、自分の将来を考える場面の設定。

2 情報発信と小中連携による推進体制作り

- 家勉講演会への校区内小学6年生の参加。
- 懇談会や学校便り等を活用した保護者、地域への情報発信。
- 校区内3小学校との協働による学習の手引き「家庭を学びの場に」の発行。



「家庭を学びの場に」
家庭学習の意義やポイント、学年ごとの家庭学習の内容例等を明示。

3 家庭学習の充実につながる指導の工夫

- 学習への心構え等を明示した「浜田二中版 学習の手引き」の作成・活用。
- 優れた自主学習ノートのモデルを掲示。
- 宿題に所要時間の目安を示し、見通しを立てた家庭学習の推進。

研究の成果

- 講演会を通して、自分の将来を考え、自ら進んで学習に取り組もうという気持ちが高まった。
- 家庭学習の時間が増えた。(6月→10月、3年生は1.3倍)
- ワークシート「7日坊主宣言」の活用で学習に取り組む雰囲気醸成された。



「7日坊主宣言」シート
ペアによるコーチングを通して前日の家庭学習を振り返り、その日の家庭学習の計画を決定。

今後の課題

- PTAの組織を活用して家庭学習の充実を図ること。
- テスト準備期間以外の家庭学習を習慣化させる手だてを工夫すること。

※首都大学東京・特任准教授。講演会では学ぶことの大切さや、ワークシート「7日坊主宣言」(1週間の学習計画・ふり返り)とコーチングの方法等をお話いただいた。



安来市立第一中学校と浜田市立第二中学校の取組の詳細については、義務教育課Webに掲載している、「平成24年度 家勉充実プロジェクト実績報告書」をご覧ください。